

## 社会保障の現場の報告を聞き考える会 第5回懇談会を開催 ～和歌山高齢協の内田嘉高氏が話題提供

4月13日（金）、「社会保障の現場の報告を聞き考える会」の第5回目になる懇談会を開催しました。琴浦代表幹事は、憲法9条を守る運動のように、25条を守る、社会保障の分野でも総がかり的な行動をつくりたい、いろんな立場の違いはあっても、憲法25条の立場で共同を追求したい、そういう場にしたいと抱負を述べました。

今回は、高齢協の内田嘉高氏（和歌山高齢者生活協同組合）に話題提供をして頂きました。

### ★元気な高齢者が活躍する場づくりから出発

和歌山高齢者生活協同組合は平成11年12月18日に設立されました。内田氏は立ち上げから関わってこられました。当時の理念は「人生の完成期、輝いて生きる」でした。元気な高齢者が活躍する場をつくらうと、養鶏、製塩、パソコン教室など。また困っている人を手伝う「お助け隊」をつくり、ゴミ屋敷の片づけをしたり、作業所の人手不足を助けたりと活動してきました。

### ★障害者も、こどもも、困りごとを抱えるすべての方を対象にした事業展開へ

そんな中で大きな転機を迎えました。平成20年に、介護予防が開始されました。経営が悪化し、給与カット、離職が止まらない、現場が疲弊していくという悪循環。この反省の上に、地域での事業活動強化にシフトが移っていきました。今度は、高齢者だけの幸せではなく、障害者も、子どもの、困りごとを抱えるすべての方を対象にするという方向付けが行われました。その理念は「誰もが光り輝く社会の実現をめざして」でした。認知症の方が安心してくらせる地域に～認知症カフェ。子どもの未来を応援する～こども食道。やまぐちささえ愛センターを拠点とした生活支援ネットワークなど。

活動分野が広がり、職員間に温度差も生まれているとのことで、認識を共有させるためのご苦労もされています。現在組合員は4千人です。1口1,000円の出資で組合員になれます。

### ○財政制度等審議会 さらなる国民負担増・給付削減を打ち出す

財務省は11日、財政制度等審議会分科会を開き、社会保障改革を議論しました。

分科会では、財政難を理由にした医療・介護のさらなる国民負担増・給付削減のメニューを打ち出しています。5月にも政府への建議をまとめます。

具体的に示したのは、18項目。比較的軽い病気のため窓口負担が少額ですんだ人に追加負担を求める。新薬の「費用対効果」が悪ければ保険適用を見送り、全額患者負担とする。救急や重症患者向けの急性期病床の削減の加速化も求めています。

介護では、ケアマネージャーが行うケアプランに利用者負担を導入。老人保健施設や介護医療院での多床室の室料は利用者負担とするとしています。

## 第26回社会保障学校のご案内

■日時 7月14日（土）午後2時開会

■場所 プラザホープ4階Aホール

■講師 井上 英夫 氏 金沢大学名誉教授 全国生存権裁判を支援する会代表

※生存権、基本的人権とは何か、語って頂きます。